



地場産食材の魅力を知ってもらいたい

profile

昭和62年2月12日生まれ。趣味は旅行とスポーツ観戦。大学時代には、道内の道の駅を全制覇した行動派。成香在任。31歳。

Spotlight

スポットライト



えんプロジェクト代表

小林裕司さん

6月、虻田神社の境内で初めて開かれた軽トラ市。荷台には、新鮮な野菜や果物などが手作りの木箱に並べられ、「いらっしやい」と買い物客を呼び寄せる大きな声が響きます。

主催したのは、昨年12月に設立した「えんプロジェクト」。洞爺湖町と豊浦町の若手農家8人が集まり、食を通じて地域に笑顔を作ろうと結成しました。

プロジェクト名の「えん」

には、人と人の「縁」が繋がって「円」になり地域を活性化したいという思いが込められています。

代表を務める小林さんは、網走市の大学を卒業後、農業をもっと深く学びたいと同市にある農業法人に2年間勤め、24歳の時、Uターン。現在は小林農園の4代目として、ビートや小豆、小麦など多くの農産物を生産しています。Aコープ洞爺店に続いて、同豊浦店も閉店。地域の人が、

地場産の食材を気軽に買える場が少なくなってきたという現状に危機感を覚えました。

「行動しないと何も始まらない。まず、自分たちでできることをやってみよう」と仲間とともに軽トラックでの移動販売を計画し、えんプロ市として実現しました。この市は、生産者と消費者がコミュニケーションをとることで、お互いがより近い存在になっていくことも大きな目的の一つです。

この地域は、米や野菜、果物、魚介類など、多種多様な食材を生産しています。地域の魅力をもっと知ってもらうために活動を続け、「今後は、漁業者や加工業者を含め、地域にあるものを全部を揃えた移動販売にしていきたい」と意気込みを語ります。

「大きな夢は、みんなの力を合わせて、農業だけじゃなく地域産業全体で町を活気づける取り組みができればいいですね」

えんプロ市は、9月、10月も開催されます。

東奔西走

炎 天下の取材が続き、肌が真っ黒に日焼けしました。皮も剥けてしまい、シャワーに入る度にヒリヒリして痛いです。これからもっと日焼けして黒くなることでしょう。(C.K)
サ マーフェスタの最後に行われる水中花火108連発。撮影で108連発を表現しようと多重露光を行いました、タイミングが難しかったです。また挑戦します。(H.S)

今月のワンショット



コンサドーレ幼児サッカー教室



2018年は北海道150年
Hokkaido's 150th Anniversary

